
学者

りんぜ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

学者

【コード】

N8995G

【作者名】

りんぜ

【あらすじ】

学者と少年と謎のかぼちゃの話。やや短いです。

はじめまして、りんぜと申します。

別のハンドルネームで小説とお題配布サイトを運営しています。

サイトに投稿した小編集小説や詩（ファンタジー中心）が多いです。基本的に文法事項などは守っているつもりですが誤字脱字や語句の間違ひがあるかもしれませのでその際にはご指摘いただければと思います。

辛口意見や感想も大歓迎です。それではどうぞー。

学者

「がくしゃのーちゃん」

自室のテーブルで寄りかかって読書していたところを呼ばれ、顔を上げると両手に少し黒い液体がかかった南瓜かぼちゃを持った子供がいた。

私は読んでいるページを折って本を閉じてテーブルに置いた。

「…それはどうしたんだ？」

「よくわからないけど、昨日とったばかりのフツの緑のカボチャが一日たったらこうなってた」

はい、と渡された南瓜を受け取りテーブルに置いた。

おかしなにおいはせず、土の香りしかしない。

一体このかけられた液体のような黒いものは何なのだろうか？

「…これは奇妙だな。お母さんやお父さん達には聞いたのか？」

「うん。家族みーんなにきいたけどわからないとか不思議ねって言った」

「そうか…」

自分たちの畑で採れた、大事な南瓜を（少なくとも私はそう思っている）

わざわざペンキなどをかける人がいるはずがない。

「だからナゾが解けるまでにーちゃん預かっててくれる？」

あ…解けたらそれ…食べちゃっていいから」

「ああ、わかった」

ありがとう、また来るねと言い少年は走り去って行った。

果たして原因が判明してこの野菜が食べられるのかは定かではないが。

先ほどまで読んでいたページを折って本を閉じた。

「……また新たな謎が増えたな」

それを解き明かすのが私達学者の役目なのだから仕方がない。

さて。

これからしばらくはこいつと付き合い合わなければ。

一体どのくらいかかるのだろうか。

自分の知識では届かない、未知の世界を歩いて私達は旅を続ける。

(後書き)

元々は二次創作の平行ルで書いた作品でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8995g/>

学者

2010年10月21日15時07分発行